

兵庫県神戸市・大阪府大阪市 出張報告要旨

1. 訪問目的

神戸は、ポートアイランド第2期を中心に、市の医療産業都市構想に基づき、高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、産学が連携して医療関連産業の集積を図っている。また、ここで形成されようとしているメディカルクラスターは、将来的には、国外からの患者受け入れ（医療ツーリズム）につながる可能性を持っている。大阪の予防医療センターでは、中国からPET総合ガン健診の受診者を受け入れるという、先駆的な取り組みが進められている。先端医療研究のさらなる推進、医療ツーリズムを推進するに当たり、先駆的な取り組みにつき情報収集し、現場の意見、アイデア、課題などを収集する。

2. 現地で得られた意見・アイデア

(1) ライフ・イノベーション分野の先端研究

- イノベーションを起こすためには、総論として①ヘテロジェナイティ（多様性）を確保すること、②研究者のリーダーシップが遺憾なく発揮できること、が重要。
- 「多様性」については、研究資金のヘテロジェナイティ（個人からの寄付金を政府資金と競わせ、ヴァイタリティを生む）と人のヘテロジェナイティ（流動性）が必要。
- 人の流動性のためには、日本では研究費は充実しているが、研究者の給与が課題であり、諸外国から優秀な研究者を獲得するには柔軟な対応が必要である。国際的には、日本の大学の給与の硬直性は特異。
- 特に、トップレベル、主任研究者（PI）レベルのヘテロジェナイティが必要。次期PIになるべき若手層に対しては、自分の人件費を確保できる制度を創設し、独立性を担保しつつ競争的環境で研究ができるようにすることが必要。小さなレベルで決定権を持たせると、研究チーム同士のコラボレーションが迅速になる。
- さらに、コラボレーションを進める「場」作りが必要。小さなユニットが集まる拠点があるとよい。特に生命科学分野では、近くに高濃度で異質なものがいることが重要。ドレスデンのマックス・プランク研究所のような、設計に工夫をして人の交流を促すような施設が理想。
- 研究費の申請を全て英語にすることを推奨。外国人の継続研究費を確保し、外国人PIが継続的に活動を行えるようにする。

- 官のリーダーシップに期待することは、海外と協力して政策レベルで新しい枠組みを作るイニシアティブを発揮すること。日本のプレゼンスが相対的に低くなっているので、海外と連携していくことが鍵である。国際リーダーシップを取れる政策担当者を育てることが必要。
- 具体的な事業の提案としては、①病院併設の研究所を作り、「個体」を取り扱えるよう、人のサーキュレーションが起こるよう、物理と工学のような異分野融合が起きるようにすること、②若手が自らマネジメントできるファンド（企画・運営・審査を全て若手で行う）を創設すること。

（２）医療ツーリズム

＜高度専門治療の強みと課題＞

- 高度専門医療の海外からのニーズは高く、受入れ体制を整備し生体肝移植などの移植再生医療・肝臓疾患治療や消化器がんの内視鏡診断・治療・手術を行う。
- 課題としては、日本語の壁に加え、ICT導入の遅れ、外国人患者の受入体制の未整備、外国人医師が働けない、外国人看護師・介護士も少ない、海外の新薬や医療機器の導入に時間がかかるなどの課題もある。

＜がん健診の強みと課題＞

- PET機器などは国内需要だけではフル活用できないので、中国富裕層などを受け入れる余地がある。
- 言葉の壁は非常に大きい。言葉や文化の違いを乗り越えるためには、信頼できる現地(中国)企業との連携が有効。
- 訴訟など受診後に生じうるトラブルへの対応は、これまでに実例がないため未知数の部分がある。
- 受診結果を、その後の治療等にいかに生かすことができるかも課題。

3. 今後の検討事項

（１）ライフ・イノベーション分野の先端研究

- 国内外の研究者の流動性や多様性を高めるための制度改革
- 若手研究者の独立性を高めるような研究資金や組織制度の検討

（２）医療ツーリズムの推進

- 高度専門医療の集積の実現と、外国人医療従事者の確保などの環境整備
- 言葉の壁の克服に資するようなコーディネーターの必要性
- 健診と治療の連携についての検討

以 上